

哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学特論Ⅰ	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	1学期	火	3	1
哲学特論Ⅰ	分析哲学を使いこなす	2	伊藤 春樹	1学期	木	4	2
哲学特論Ⅱ	プラトンの魂論	2	荻原 理	2学期	月	3	3
哲学特論Ⅱ	「フランクフルト学派」の哲学とその周辺	2	齋藤 直樹	2学期	火	4	4
哲学特論Ⅲ	死者と価値、およびそれを語る言語	2	柏端 達也	集中(1学期)			5
哲学研究演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江 清隆. 荻原 理. 原 壱. 城戸 淳	1学期	月	5	6
哲学研究演習Ⅰ	アーレント『革命について』第5章を読む	2	森 一郎	1学期	火	4	7
哲学研究演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江 清隆. 荻原 理. 原 壱. 城戸 淳	2学期	月	5	8
古代中世哲学研究演習Ⅰ	アリストテレス『魂について』第2巻を読む	2	荻原 理	1学期	月	3	9
近現代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粹理性批判』研究	2	城戸 淳	1学期	水	5	10
近現代哲学研究演習Ⅰ	フッサール「幾何学の起源」を読む	2	直江 清隆	1学期	金	5	11
近現代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粹理性批判』研究	2	城戸 淳	2学期	水	5	12
近現代哲学研究演習Ⅱ	フッサール「幾何学の起源」を読む	2	直江 清隆	2学期	金	5	13
近現代哲学研究演習Ⅲ	カントの歴史哲学	2	城戸 淳	1学期	木	2	14
近現代哲学研究演習Ⅳ	カント『判断力批判』の美学	2	城戸 淳	2学期	木	2	15
科学哲学研究演習Ⅰ	現代分析哲学・科学哲学入門	2	原 壱	1学期	金	2	16
科学哲学研究演習Ⅰ	哲学のメソッド	2	原 壱	1学期	金	3	17

哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
科学哲学研究演習Ⅱ	現代分析哲学・科学哲学入門	2	原 塑	2学期	金	2	18
科学哲学研究演習Ⅱ	記号論理学	2	原 塑	2学期	金	3	19
生命環境倫理学研究演習	生誕や差別の生命倫理学	2	直江 清隆	2学期	火	3	20
課題研究 (哲学)		4	直江 清隆. 荻原 理. 原 塑. 城戸 淳	通年	火	1	

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM12302， 科目ナンバリング：LHS-PHI631J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。

今学期は、尊厳をテーマに、

- 1) 尊厳という概念
- 2) 尊厳概念の諸相（生命、環境、技術など）
- 3) 人間の尊厳と近代科学

について順に論じ、哲学的・倫理学的問題の所在を明らかにする。（講義となっているが、必要に応じて、大学院生による報告も織り交ぜることを予定している）。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：尊厳という概念はいかなる意味か
2. 尊厳という概念は有効か（生命倫理における人間の尊厳）(1)
3. 尊厳という概念は有効か（生命倫理における人間の尊厳）(2)
4. ヒト胚と尊厳
5. ターミナルケアと人間の自律 (1)
6. ターミナルケアと人間の自律 (2)
7. 尊厳死 (1)
8. 尊厳死 (2)
9. 障害と尊厳
10. 自然の価値 (1)
11. 自然の価値 (2)
12. ロボットと人間の尊厳 (1)
13. ロボットと人間の尊厳 (2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

【必要に応じて内容を差し替えアップデートを図ることがある】

6. 成績評価方法：

レポート 80% 授業への参加 20%

7. 教科書および参考書：

教材は必要に応じてコピーを配布します。

参考書：加藤泰史編『尊厳概念のダイナミックス』2017、Human Dignity and Bioethics, 2008 『ドイツ応用倫理学の現在』2002 ほか。

8. 授業時間外学習：

出席して討議に参加するように努めること。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

9. その他：

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：伊藤 春樹（非常勤講師）

講義コード：LM14402， 科目ナンバリング：LHS-PHI631J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

分析哲学を使いこなす

2. Course Title (授業題目)：

A way to master analytical philosophy

3. 授業の目的と概要：

分析哲学とは、無難に言えば、第二次世界大戦後の英語圏における哲学潮流のことである。この時期のイギリス、オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）のほぼすべての哲学者（倫理学者、法哲学者、古典文献学者を含む）と、アメリカの多くの哲学者が分析哲学者である。日本の大学は、戦前、官学ではドイツ哲学が、私学ではイギリス哲学が主流であって、棲み分けがなされていたが、戦後は、おもに東京大学と京都大学を中心に、若い人たちの間に同時代の英米哲学を真剣に学ぶ動向が生じた。「分析哲学(analytical philosophy)」という名称には英語の場合でも pejorative な意味合いがこめられているが、日本語では露骨に蔑称であるゆえに、その若い日本人たちにも、分析哲学をやっているが「分析哲学者」と呼ばれるのを嫌う傾向があった。東北大学は伝統的に分析哲学に関心が低い、というよりほとんど問題外といった風情である。しかしながら分析哲学はイギリス経験論を母体としており、その自然主義的傾向は、人文諸科学や自然科学と陸続きであり、またアリストテレスに対して高い親和性を有している。分析哲学が現象学と異母兄弟の間柄にあることを思い出してみるのも無駄ではあるまい。ただしこの兄弟はひどく仲が悪いが、分析哲学は、それを嫌うよりも使いこなすにしくはないのである。なにしろ、ドイツ観念論ほどはむずかしくないのだから。と言ってみても、難解であるがゆえに哲学として学ぶ価値があると固く信じて疑わない真面目な学生諸君にしてみれば、分析哲学のわかりやすさそのものがイカガワシクうるつだろから、何をかいわんやだが。この授業では、分析哲学を、〈ことばの哲学〉と〈こころの哲学〉と〈存在論〉の三つに絞って、それぞれの問題領域がどのような理論構成の下に展開されて来たかを見ることによって、分析哲学の広がりや限界を見極めることを目指している。分析哲学を使いこなすためには、分析哲学が開発してきた概念や理論を知ると同時に、その限界を見極めることも不可欠である。分析哲学を使いこなすとは、分析哲学を哲学の境界として見るのではなくむしろ哲学の王道とみなすことである。授業では、担当教員の論文を材料に、それらの論文が分析哲学内部のどのような論争状況を背景に書かれたものであるかの解説を中心に進められる。〈ことばの哲学〉では、Frege の Bedeutung という概念が Quine や Dummett に引き継がれて意味論のもとに存在論的議論をいかに活性化したかが示される。〈こころの哲学〉では、Ryle 流の二元論的枠組みが Davidson や Putnam によって乗り越えられて一元論的な見方が主流になったにもかかわらず、難問を抱えている現状が示される。〈哲学の哲学〉では、意志と自由の問題において分析哲学的な存在論が逢着している限界が示される。

4. 学習の到達目標：

分析哲学者の論争的論文を教材として分析哲学の現場を実況中継風に学ぶことができるので、分析哲学者の本音や雑談もふくめて、哲学的思索の実際を知ることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：分析哲学とはなにか。
- 2：ことばの哲学（1）：Frege が開いた新しい眺望：「埋設文における固有名の指示について」「同一性言明について」
- 3：ことばの哲学（2）「私のセマンティックス」
- 4：ことばの哲学（3）「単称存在言明について」
- 5：ことばの哲学（4）「虚構における指示」
- 6：ことばからこころへ：こころの問題はことばの問題でもある。Ryle を超えていく。
- 7：こころの哲学（1）「感情とクオリア」
- 8：こころの哲学（2）「こころとは何か」
- 9：こころの哲学（3）「意識の本質をどこに置くか」
- 10：こころの哲学（4）「「痛い！」は認識か」
- 11：こころから哲学へ：哲学にあたらしい眺望を開くのも哲学の仕事だ。
- 12：哲学の哲学（1）「libertarianism を自然化する」
- 13：哲学の哲学（2）「偶然性について」
- 14：哲学の哲学（3）「両立論論駁——ホップズの場合——」
- 15：哲学の哲学（4）「両立論の息の根」：両立論とは活動（批判）を停止した哲学のことである。

6. 成績評価方法：

授業内容に関係するレポートを提出してもらい、それに基づいて採点する。採点基準は、授業内容をどれだけ正確に理解しているか、どれだけ根底的な批判を展開できているかで判定する。

7. 教科書および参考書：

必要な文献・資料はそのつど紹介し、また配布するが、分析哲学を知るスタンダードな教材としては、〈ことばの哲学〉については、すこし古いが飯田隆著『言語哲学大全 I～IV』を、〈こころの哲学〉については、すこし難しいかもしれないが信原幸弘編『シリーズ心の哲学 I～III』を薦めたい。いずれも発行は勁草書房。

8. 授業時間外学習：

教材として配布される資料（担当教員が書いた論文）を前もって読んでおくこと。資料に対して激的な批判を考えること。

9. その他：

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LM21302， **科目ナンバリング：**LHS-PHI632J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

プラトンの魂論

2. Course Title (授業題目)：

Plato on the soul

3. 授業の目的と概要：

プラトンによる魂の原的把握の諸形態、ならびに、魂をめぐる思索の諸展開を理解する。そして同じ事柄をめぐる自ら思考する。プラトンの初期・中期・後期を通じて考察する。

講義形式だが、積極的に質問してほしい。希望者がいれば数名まで、プレゼンテーションをお願いする。

4. 学習の到達目標：

プラトンの魂論について正確に説明できるようになる。同じ事柄について自らの思索を語り出すようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回：オリエンテーション

2回ほど：プラトン初期の魂論（『弁明』、『クリトン』、『ゴルギアス』）

5～6回：プラトン中期の魂論（『饗宴』、『パイドン』、『パイドロス』）

5～6回：プラトン後期の魂論（『テアイテトス』、『ピレボス』、『法律』）

6. 成績評価方法：

学期末レポート（またはプレゼンテーション）

7. 教科書および参考書：

授業時に指定する。

8. 授業時間外学習：

授業の内容について考え、わかりにくかったところや、自分で考えたことをまとめておく（次回の授業で質問等するために）。

9. その他：

ギリシャ語の知識は必要ない。

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：齋藤 直樹（非常勤講師）

講義コード：LM22403， **科目ナンバリング：**LHS-PHI632J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

「フランクフルト学派」の哲学とその周辺

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of Frankfurt School and Its Surrounding Ideas

3. 授業の目的と概要：

「フランクフルト学派」とは、1920 年代にフランクフルト大学に設立された社会研究所のメンバーと思想的ないしは歴史的に関連をもつ思想家集団のことをいう。彼らの思想の基本的な特徴は、マルクスが提示した史的唯物論を土台としつつも、当代の哲学ならびに経験諸科学が示す最新の知見を逐一導入することを通じて、現代社会のアクチュアルな問題を批判的に解明しようとする「学際的唯物論」の構想にある。本講義では、この構想の現代へと至る批判的な継承過程を、第一世代による「道具的理性批判」（ホルクハイマー／アドルノ）、第二世代による理性批判の「コミュニケーション論的転回」（ハーバーマス）、第三世代による「承認論的転回」（ホネット）を主軸として概観し、彼らの思想を支える哲学的主張の骨子を通史的に理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

1. 20 世紀初頭から現在に至るフランクフルト学派の思想的展開を通史的に捉えることができるようになる
2. 「批判理論」の理念ならびに方法論的な特徴を理解することができるようになる
3. 理論と実践ないしは哲学と社会の関係のあり方に対して自分なりの観点を持つことができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フランクフルト学派の社会的背景：ナチズムとユダヤ人問題
2. フランクフルト学派の思想的背景：マルクスとフロイト
3. 初期フランクフルト学派の思想(1)：ホルクハイマーにおける「批判」概念
4. 初期フランクフルト学派の思想(2)：ベンヤミンの「アレゴリー論」
5. 第一世代の思想(1)：初期アドルノにおける「自然史の理念」と「コンステラチオン」
6. 第一世代の思想(2)：『啓蒙の弁証法』における「道具的理性批判」
7. 第一世代の思想(3)：『否定弁証法』における理性批判の展開
8. 第一世代の思想(4)：『美の理論』における否定的ユートピアニズムの射程
9. 第二世代の思想(1)：ハーバーマスによるアドルノ批判
10. 第二世代の思想(2)：理性批判の「コミュニケーション論的転回」
11. 第二世代の思想(3)：公共性の構造転換—「システム」と「生活世界」
12. 第三世代の思想(1)：ホネットによるハーバーマス批判
13. 第三世代の思想(2)：理性批判の「承認論的転回」
14. 第三世代の思想(3)：「物象化」概念への承認論的アプローチ
15. フランクフルト学派の現代的展開

6. 成績評価方法：

学期末のレポート（80%）、平常点（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配付する。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

指定された文献あるいは配布された資料を熟読するとともに、各回の講義内容をその都度ノート等にまとめ整理しておくこと。

9. その他：

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：柏端 達也（非常勤講師）

講義コード：LM98809、科目ナンバリング：LHS-PHI633J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

死者と価値、およびそれを語る言語

2. Course Title (授業題目)：

The Dead, Value and Our Language about Them

3. 授業の目的と概要：

「死者」をめぐるのは、いわゆる虚構的対象（架空物）に関するのと類比的な存在論的問題が生じると同時に、かなり風あいの異なる価値論的な問題が生じる。それらの問題には日常的なものと理論的なものがある。「これから生まれてくる者」、「生まれてくることのない者」をめぐるのも、それぞれの仕方で、同様の問題状況がある。人や「人」と呼ばれるもののカテゴリーは、あなたや私といった、いま現に生きて直接影響を及ぼしあえる人間たちよりもおそらくずっと広い範囲を覆っている。この講義では、現代の形而上学や価値論、および言語哲学の観点から、それら「人」のカテゴリーをめぐる諸問題の状況を素描することを試みたい。そのなかから個別的な問題への取り組みに向けて一歩進むための道を示唆できればよいと考えている。

4. 学習の到達目標：

- (1) 「死者」がどのように存在論的な問題を生じさせ、かつそれがどのように価値の問題と関わるのかを理解すること。
- (2) 現代の形而上学、価値論、および言語哲学の基本的な概念装置にある程度なじむこと。
- (3) 関連する哲学的問題について自分なりに何か考えてみようという気が起きること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 存在と非存在をめぐる議論の概観(1)
3. 存在と非存在をめぐる議論の概観(2)
4. 死者の問題(1)
5. 理論(1)
6. 死者の問題(2)
7. 死者の問題(3)
8. 理論(2)
9. 理論(3)
10. これから生まれてくる者に関する問題
11. 理論(4)
12. 生まれてくることのない者に関する問題
13. 理論(5)
14. その他の問題
15. 総括

※あくまで「進度予定」のため、各回テーマの順番と比率は弾力的に変更される。

6. 成績評価方法：

学習目標達成度を測る授業内の複数回のコメントペーパー（40%）と1回の筆記試験（60%）で評価する。

7. 教科書および参考書：

柏端達也『現代形而上学入門』2017年、勁草書房。その他、授業中にも口頭またはプリントで示唆する。

授業は配布したプリントを用いて進める。

8. 授業時間外学習：

予習は必要ないが、ふり返って考えてみてどうしても分からないところがあればそのままにせず次の回で質問してほしい。とくに技術的な事柄については。

9. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆、荻原 理、原 壘、城戸 淳（教授 他）

講義コード：LM11504， 科目ナンバリング：LHS-PHI634J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

6. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

出席 30%

発表内容 35%

討論への積極的参加 35%

7. 教科書および参考書：

特に指定しない。

8. 授業時間外学習：

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

9. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：森 一郎（兼務教員）

講義コード：LM12404， 科目ナンバリング：LHS-PHI634J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

アーレント『革命について』第5章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 5

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』『活動的生涯』に次ぐ第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める（ドイツ語版からの日本語訳を配布予定）。今学期は、第5章「時代の新秩序」を読んでゆく。

4. 学習の到達目標：

- ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版の Hannah Arendt, Über die Revolution の試訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版 On Revolution とその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

第1回 ガイダンスとイントロダクション——『革命について』を今日読むことの重要性

第2回 第5章第1節（その1）——革命における権威の必要性

第3回 第5章第1節（その2）——古代の法観念と近代の自然法思想

第4回 第5章第1節（その3）——来世での応報の信仰

第5回 第5章第1節（その4）——政治における無神論の危険

第6回 第5章第1節（その5）——自明の真理という権威

第7回 第5章第2節（その1）——権威としての創設それ自体

第8回 第5章第2節（その2）——権力と権威のローマ的区別

第9回 第5章第2節（その3）——ローマ的分立のアメリカにおける制度化

第10回 第5章第3節（その1）——創設とその永続性

第11回 第5章第3節（その2）——始まりの問題へ

第12回 第5章第3節（その3）——原理としての始まり

第13回 第5章第3節（その4）——可死性と誕生性

第14回 二つの憲法の間で——維新精神と平和主義

第15回 まとめ——改憲、護憲、加憲、そして活憲

6. 成績評価方法：

平常点（出席は当然とし、発表担当、議論への参加など）を60%、学期末レポートを40%として総合評価する。

7. 教科書および参考書：

・ドイツ語版テキスト試訳をコピーして配布したものを、主要テキストとする。

・原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。

Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper; Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Books

・英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。

ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫

8. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

9. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅱ／Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：直江 清隆.荻原 理.原 壘.城戸 淳(教授 他)

講義コード：LM21504， **科目ナンバリング：**LHS-PHI635J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy(Advanced Seminar)II

3. 授業の目的と概要：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

6. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

出席 30%

発表内容 35%

討論への積極的参加 35%

7. 教科書および参考書：

特に指定しない。

8. 授業時間外学習：

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

9. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LM11302， 科目ナンバリング：LHS-PHI636J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

アリストテレス『魂について』第 2 巻を読む

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Aristotle's DE ANIMA, Book II

3. 授業の目的と概要：

アリストテレス『魂について』第 2 巻を原語（古代ギリシャ語）で読んでいく。

あらかじめ当てておいた担当の方に、担当箇所を日本語に訳してもらい（わからなかった点はいくらでも質問してくれれば結構）。テキストの語学上の諸点や、内容を正確に理解するために、教員も含め、皆で議論する（そのさい、解釈上の問題も話題に上るであろう）。

4. 学習の到達目標：

アリストテレスの魂論について、テキストを踏まえて説明できるようになる。『魂について』第 2 巻のテキストの詳細を、主要な諸解釈の可能性も含め、説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

担当者が担当箇所を邦訳し、（語学的・内容的・文献学的）問題を提起し、皆で議論する。

第 1 回：イントロ

第 2 回：第 2 巻第 1 章 最初 3 分の 1

第 3 回： 第 1 章 中 3 分の 1

第 4 回： 第 1 章 最後 3 分の 1

第 5 回： 第 2 章 最初 3 分の 1

第 6 回： 第 2 章 中 3 分の 1

第 7 回： 第 2 章 最後 3 分の 1

第 8 回： 第 3 章 前半

第 9 回： 第 3 章 後半

第 10 回： 第 4 章 最初 5 分の 1

第 11 回： 第 4 章 次の 5 分の 1（5 分の 2 まで）

第 12 回： 第 4 章 次の 5 分の 1（5 分の 3 まで）

第 13 回： 第 4 章 次の 5 分の 1（5 分の 4 まで）

第 14 回： 第 4 章 最後 5 分の 1

第 15 回： 第 5 章 最初 3 分の 1

6. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80%

担当以外の、授業時のパフォーマンス：20%

7. 教科書および参考書：

授業中に指定する。Ross の校訂本を用いる。

8. 授業時間外学習：

次回の箇所の予習。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習 I / Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LM13505， 科目ナンバリング：LHS-PHI640J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアプリアリな総合判断(原則)のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジюмеにして報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 第二篇 原則の分析論
- 3 序論 超越論的判断力一般について
- 4 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (1 判断と包摂)
- 5 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (2 図式と像)
- 6 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (3 量・質・関係・様相)
- 7 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (4 実在化と制限)
- 8 第二章 純粋悟性のあらゆる原則の体系
- 9 第一節 あらゆる分析的判断の最高原則について (1 矛盾律について)
- 10 第一節 あらゆる分析的判断の最高原則について (2 矛盾と時間)
- 11 第二節 あらゆる総合的判断の最高原則について (1 総合の媒介者)
- 12 第二節 あらゆる総合的判断の最高原則について (2 経験の可能性の条件)
- 13 第三節 純粋悟性のあらゆる総合的原則の体系的呈示 (1 悟性の法則)
- 14 第三節 純粋悟性のあらゆる総合的原則の体系的呈示 (2 数学的/力学的使用)
- 15 1 直観の公理 (1 第二版の証明) (続く)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習 I / Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM15502， 科目ナンバリング：LHS-PHI640J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「幾何学の起源」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's "Der Ursprung der Geometrie"

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また、後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳(英訳・仏訳)を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・テキストを原文で読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1, イントロダクション
- 2, 『危機』書の紹介
- 3, 「幾何学の起源」読解 (1)
- 4, 「幾何学の起源」読解 (2)
- 5, 「幾何学の起源」読解 (3)
- 6, 「幾何学の起源」読解 (4)
- 7, 「幾何学の起源」読解 (5)
- 8, 「幾何学の起源」読解 (6)
- 9, 「幾何学の起源」読解 (7)
- 10, 「幾何学の起源」読解 (8)
- 11, 「幾何学の起源」読解 (9)
- 12, 「幾何学の起源」読解 (10)
- 13, 「幾何学の起源」読解 (11)
- 14, 「幾何学の起源」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

- レポート 50%
- 平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Der Ursprung der Geometrie, in: Husserliana VI, 1976, [邦訳: 『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』細谷貞夫、木田元訳、中公文庫所収)のコピーを配布する。ドイツ語が不得手な人には、英訳 Origin of geometry, an introduction も配布する。授業では、『幾何学の起源』エドムント・フッサール著；ジャック・デリダ序説、田島節夫、矢島忠夫、鈴木修一訳、青土社や、モーリス・メルロ＝ポンティ『フッ

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』や参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習Ⅱ／ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM23504， 科目ナンバリング：LHS-PHI641J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』（1781/87年）の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアプリアリな総合判断（原則）のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる（範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある）。また、英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジюмеにして報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 (承前) 1 直観の公理 (2 外延量)
- 2 1 直観の公理 (3 幾何学)
- 3 2 知覚の予科 (1 第二版の証明)
- 4 2 知覚の予科 (2 予料について)
- 5 2 知覚の予科 (3 実在性と内包量)
- 7 3 経験の類推 (1 第二版の証明)
- 8 3 経験の類推 (2 第一版の証明)
- 9 A 第一類推 実体の持続性の原則 (1 第二版の証明)
- 10 A 第一類推 実体の持続性の原則 (2 第一版の証明)
- 11 A 第一類推 実体の持続性の原則 (3 変化と基体)
- 12 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (1 第二版の証明)
- 13 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (2 家と船)
- 14 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (3 継起と因果)
- 15 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (4 時間と因果の問題)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習Ⅱ／ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM25502， 科目ナンバリング：LHS-PHI641J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「幾何学の起源」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's "Der Ursprung der Geometrie"

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また、後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。

この授業では、前期に引き続き、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳(英訳・仏訳)を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・テキストを原文で読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、「幾何学の起源」と『危機』書（前期のおさらい）
- 2、「幾何学の起源」読解（1）
- 3、「幾何学の起源」読解（2）
- 4、「幾何学の起源」読解（3）
- 5、「幾何学の起源」読解（4）
- 6、「幾何学の起源」読解（5）
- 7、「幾何学の起源」読解（6）
- 8、「幾何学の起源」読解（7）
- 9、「幾何学の起源」読解（8）
- 10、「幾何学の起源」読解（9）
- 11、「幾何学の起源」読解（10）
- 12、「幾何学の起源」読解（11）
- 13、「幾何学の起源」読解（12）
- 14、まとめ(1)
- 15、まとめ(2)

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Der Ursprung der Geometrie, in: Husserliana VI, 1976, [邦訳:『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』細谷貞夫、木田元訳、中公文庫所収)のコピーを配布する。ドイツ語が不得手な人には、英訳 Origin of geometry, an introduction も配布する。授業では、『幾何学の起源』エドムント・フッサール著；ジャック・デリダ序説、田島節夫、矢島忠夫、鈴木修一訳、青土社や、モーリス・メルロ＝ポンティ『フッ

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』や参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習Ⅲ／ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM14206， 科目ナンバリング：LHS-PHI642J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カントの歴史哲学

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Philosophy of History

3. 授業の目的と概要：

批判期のカントは『ベルリン月報』などの雑誌に、政治、宗教、歴史など幅広い話題について、ときには時事や新刊書にも触れながら、さまざまなエッセーを寄稿していた。この演習では、このうち、広義の歴史哲学に属すると見られる諸論文を読む。（とりあげるテキストは、受講生の関心や演習の進捗などに応じて変更することがある。）

演習は邦訳書をもとに進める（もちろんドイツ語原典の講読が望ましい）。担当者による報告とその後の質疑応答・討議によって、カントの歴史哲学の諸相について理解を深めるものとする。

4. 学習の到達目標：

カントの歴史哲学論文を読み、その基本思想を把握し、批判的に思考する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 カントの歴史哲学への導入
- 2 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(1) 報告
- 3 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(2) 討議
- 4 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(3) 研究
- 5 『啓蒙とは何か』(1) 報告
- 6 『啓蒙とは何か』(2) 討議
- 7 『啓蒙とは何か』(3) 研究
- 8 『人類の歴史の憶測的な起源』(1) 報告
- 9 『人類の歴史の憶測的な起源』(2) 討議と研究
- 10 『万物の終焉』(1) 報告
- 11 『万物の終焉』(2) 討議と研究
- 12 『永遠平和のために』(1) 報告
- 13 『永遠平和のために』(2) 討議
- 14 『永遠平和のために』(3) 研究
- 15 総括的考察

6. 成績評価方法：

報告、討論、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他3編』中山元訳、光文社古典新訳文庫。

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさず演習に臨むこと。

9. その他：

科目名：近現代哲学研究演習IV／ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM24205， 科目ナンバリング：LHS-PHI643J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『判断力批判』の美学

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Aesthetics in Critique of Power of Judgment

3. 授業の目的と概要：

カントの『判断力批判』の第1部「美感的 (aesthetisch) 判断力の批判」は、近代の「美学 (Aesthetik)」に哲学的基礎を与えた。とはいえ、批判哲学の概念装置が自由自在に駆使されていることもあり、なかなか独学では読みとおしにくいところがある。この演習では、美と崇高をめぐるカントの思索に迫るべく、「美感的判断力の分析論」を読みすすめる。

演習は邦訳書をもとに進める（専門的に学ぼうとする者にはドイツ語原典による講読を勧める）。担当者による報告、その後の質疑応答、解説、討議を通じて、カント美学の基本を理解することをめざす。

4. 学習の到達目標：

カント美学の基本を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 カント美学への導入
- 2 美の分析論 趣味判断の第一契機 「質」（1 美感的判断と関心）
- 3 趣味判断の第一契機 「質」（2 美、快適、善）
- 4 趣味判断の第二契機 「量」（1 普遍的な適意）
- 5 趣味判断の第二契機 「量」（2 主観的普遍性）
- 6 趣味判断の第三契機 目的の「関係」（1 合目的性）
- 7 趣味判断の第三契機 目的の「関係」（2 魅力と完全性）
- 8 趣味判断の第四契機 対象の「様相」（1 主観的必然性）
- 9 趣味判断の第四契機 対象の「様相」（1 共通感覚について）
- 10 崇高の分析論
- 11 数学的崇高
- 12 力学的崇高
- 13 美感的判断の解明への一般的注解
- 14 純粋な美感的判断の演繹（1 趣味判断の演繹）
- 15 純粋な美感的判断の演繹（2 共通感覚と関心）

6. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）『カント全集 8 判断力批判 上』牧野英二訳、岩波書店、1999年。／Immanuel Kant, Kritik der Urteilskraft, PhB, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 2009.

参考書 熊野純彦『カント 美と倫理とのはざままで』講談社、2017年。

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさず演習に臨むこと。

9. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM15204， 科目ナンバリング：LHS-PHI644J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代分析哲学・科学哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Analytic Philosophy and the Philosophy of Science

3. 授業の目的と概要：

分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や確率、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。前期では、この本の前半、つまり集合論を扱った第 1 部と、必然性と偶然性、アプリアリとアポステリアリ、分析性と総合性について解説している第 2 部を検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 集合論、様相などの基礎概念に習熟する。
2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Philosophical Devices の前半部の章立ては以下の通りである。

Part I Sets and Numbers

1. Naive Sets and Russell's Paradox
2. Infinite Sets
3. Orders of Infinity

Part II Analyticity, A Prioricity, and Necessity

4. Kinds of Truths
5. Possible Worlds
6. Naming and Necessity

授業の初回はイントロダクションで、その後、Part I、Part II の各章をそれぞれ 2 回の授業時間を使って読解し、それぞれの章についている練習問題と取り組む。途中、数回の授業を質疑応答にあてる。

6. 成績評価方法：

レジュメの担当 60%、学期末レポートの作成 40%

7. 教科書および参考書：

David Papineau. 2012. Philosophical Devices--Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

8. 授業時間外学習：

教科書の中で各授業で扱う箇所に、事前に目を通すとともに、練習問題の解答を作成する。

9. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM15303， 科目ナンバリング：LHS-PHI644J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：

How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：

哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読み解き、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を講義した後、サイモン・ブラックバーン著『ビッグクエスチョンズ 哲学』（山邊昭則・下野葉月 訳）を用いたワークショップ型の演習を行なう。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. 学習の到達目標：

1. 哲学論文の分析方法に習熟する。
2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. インTRODクシヨン
2. 哲学研究方法論講義
3. 文献のまとめ方講義
- 4～7. ワークショップ型演習（4～5人のグループに分かれて、選んだテーマについて討論する）
- 8～9. ワークショップ発表
- 10～15. 卒論・修論構想発表

6. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む（60%）、研究発表（40%）

7. 教科書および参考書：

サイモン・ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』（山邊昭則・下野葉月 訳）2015年、ディスカバリー
佐々木健一『論文ゼミナール』2014年、東京大学出版会
戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012年、NHK出版会

8. 授業時間外学習：

論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

9. その他：

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修3年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜5限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM25203， 科目ナンバリング：LHS-PHI645J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代分析哲学・科学哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Analytic Philosophy and the Philosophy of Science

3. 授業の目的と概要：

分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や確率、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。後期では、この本の後半、つまり確率を扱った第3部と、論理学について解説している第4部を検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 確率、論理学などの基礎概念に習熟する。
2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Philosophical Devices の後半部の章立ては以下の通りである。

Part III The Nature and Uses of Probability

7. Kinds of Probability
8. Constraints on Credence
9. Correlations and Causes

Part IV Logic and Theories

10. Syntax and Semantics
11. Soundness and Completeness
12. Theories and Gödel's Theorem

授業の初回はイントロダクションで、その後、Part III、Part IV の各章をそれぞれ2回の授業時間を使って読解し、それぞれの章についている練習問題と取り組む。途中、数回の授業を質疑応答にあてる。

6. 成績評価方法：

レジュメの担当 60%、学期末レポートの作成 40%

7. 教科書および参考書：

David Papineau. 2012. Philosophical Devices--Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

8. 授業時間外学習：

教科書の中で各授業で扱う箇所に、事前に目を通すとともに、練習問題の解答を作成する。

9. その他：

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM25303， 科目ナンバリング：LHS-PHI645J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

記号論理学

2. Course Title (授業題目)：

Formal Logic

3. 授業の目的と概要：

一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。
2. 記号の操作法を身につける。
3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する（60%）、テスト（40%）

7. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014年
丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014年

8. 授業時間外学習：

自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

9. その他：

科目名：生命環境倫理学研究演習／ Social and Applied Ethics(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM22302， 科目ナンバリング：LHS-PHI646J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

生誕や差別の生命倫理学

2. Course Title (授業題目)：

Bioethics of Reproduction and Discrimination

Bioethics of Reproduction and Discrimination

3. 授業の目的と概要：

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。生殖医療、再生医療について、生命へのいかなる介入が認められるかが問われていることはよく知られているが、これは新たな問いである。この授業では、このような新たな技術の導入とそれが人の尊厳、とりわけ差別と関わってくる問題について考えていくことにする。参加者による英語論文(Erik Parens, Adrienne Asch(ed.), Prenatal testing and disability rights, 2000;Allen Buchanan, Beyond Humanity? 2011;Simon Peter van Rysewyk, Matthijs Pontier(ed.), Machine Medical Ethics, 2015 などから適宜選択する)の紹介と討論をメインとするが、適宜日本語の論文も取り上げる。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
2. 担当者による報告と内容についての議論 (1)
 - 2 出生前診断と障害者の権利
 - 3 出生前診断の現状
 - 4 親であること、障害、出生前診断
 - 5 家族における障害者の経験
 - 6 出生前診断への制限
 - 7 障害、出生前診断、選択的妊娠中絶
 - 8 出生前診断の障害者の社会的構成
 - 9 出生前診断や選択的妊娠中絶に対する障害者団体の態度
 - 10 出生前診断途と法
 - 11 出生前診断と医療者の倫理
 - 12 意図せざる結果
 - 13 出生前診断と社会構成主義批判
 - 14 配分の正義と新技術の普及
 - 15 まとめ

(参加者の関心に応じて扱う箇所を変更することがある)

6. 成績評価方法：

レポート(訳読の担当などを含む)60% 授業全体への貢献度 40%

7. 教科書および参考書：

開講時にプリントを配布。参考書:赤林朗編『入門・医療倫理 (1)』

そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。

9. その他：